

# ファイブスター・バリコレ・ファンド

追加型投信/内外/資産複合/特殊型

## 交付運用報告書

第3期(決算日 2016年11月25日)

作成対象期間(2015年11月26日～2016年11月25日)

第3期末(2016年11月25日)	
基準価額	8,063円
純資産総額	1,029百万円
(2015年11月26日～2016年11月25日)	
騰落率	△16.6%
分配金合計	0円

(注1)以下本書において、基準価額及び分配金は1万口当たりで表記しています。

(注2)騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ファイブスター・バリコレ・ファンド」は、このたび、第3期の決算を行いました。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主に世界(日本を含みます。)の上場投資証券、有価証券先物取引、並びに金や原油等の商品先物取引等、およびわが国の公社債、短期金融商品に投資し、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 照会先

ホームページアドレス:<http://www.fivestar-am.co.jp/>

お客様デスク:03-3553-8711

(受付時間:委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで)

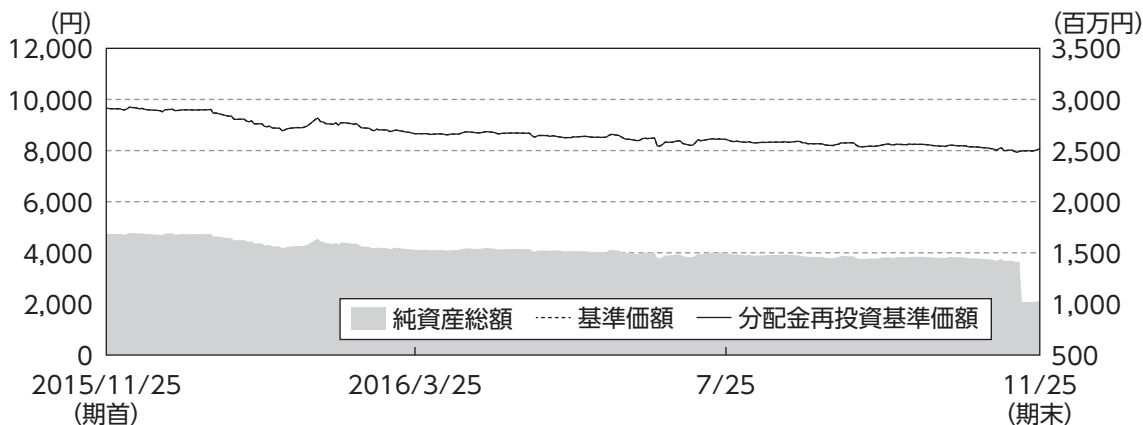
## ファイブスター投信投資顧問株式会社

東京都中央区入船1-2-9 八丁堀MFビル8階

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。上記PCサイトにアクセスし、「ファンドを検索する」等から、当ファンドのページを表示させることにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

## ★運用経過

### ☆基準価額の推移



第3期首:9,663円

第3期末:8,063円(既払分配金0円)

騰落率:△16.6%(分配金再投資ベース)

(注1)分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2)分配金を再投資するかどうかについてはお客様が御利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件もこととなりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3)分配金再投資基準価額は、2015年11月25日を基準価額に合わせて指数化しています。

### ☆基準価額の主な変動要因

#### 上昇要因

- ・2016年2月:先月1月末に開かれた日銀金融政策決定会合ではマイナス金利の導入が決定されたことや米国経済に対する楽観論の後退から比較的安全資産とされる円の逃避需要などで、大幅に円高が進行し日本株が先月に続き月間-8.5%下落したことから、日本株式のショート(売り)ポジションが基準価額に対してプラス寄与となったこと
- ・2016年7月:米国の利上げ観測の後退から米国10年債利回りが過去最低を記録する低金利となったことや、BREXIT(英国の欧州連合からの離脱)後に予想より早くメイ英国新首相が選出されたことなどが好感され、世界的に株式が上昇したことから、米国株式や日本株式、新興国株式のロング(買い)ポジションが基準価額に対してプラス寄与となったこと

## 下落要因

- ・2016年1月:2015年12月まで比較的堅調に上昇を続けてきた米国株や日本株が、サウジアラビアとイランが1月2日に国交を断絶したニュースを受けて原油が下落したことをきっかけに、S&P500指数(米国株の代表的な株価指数)が月間-5.1%、日経平均株価指数が月間-8.0%と共に急落したことから、米国株式と日本株式のロング(買い)ポジションが基準価額に対してマイナス寄与となったこと
- ・2016年6月:事前の予想に反して英国の国民投票でEU(欧州連合)離脱が可決され、将来に渡る経済的、政治的不透明感が広がり世界的な株安を引き起こしたことから、日本株式とドイツ株式のロング(買い)ポジションが基準価額に対してマイナス寄与となったこと

組入ファンド	基本組入比率	当作成対象 期間末組入比率	騰落率
CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド	95.0%	96.2%	△16.2%
ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	5.0%	3.9%	△0.1%

(注)騰落率は分配金再投資ベースで計算しております。

## ☆1万口当たりの費用明細

項目	第3期		項目の概要
	(2015年11月26日~2016年11月25日)		
	金額(円)	比率(%)	
(a) 信託報酬	97	1.11	(a)信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 期中の平均基準価額は8,690円です。 信託報酬に係る消費税は当(作成)期末の税率を採用しています。 委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(投信会社)	(47)	(0.54)	
(販売会社)	(47)	(0.54)	
(受託会社)	(3)	(0.03)	
(b) 売買委託手数料	—	—	
(株式)	(—)	(—)	
(投資証券)	(—)	(—)	
(先物オプション)	(—)	(—)	
(新株予約権証券)	(—)	(—)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(—)	(—)	
(投資信託受益証券)	(—)	(—)	
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税 = $\frac{[期中の有価証券取引税]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(—)	(—)	
(投資証券)	(—)	(—)	
(先物オプション)	(—)	(—)	
(新株予約権証券)	(—)	(—)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(—)	(—)	
(投資信託受益証券)	(—)	(—)	
(d) その他費用	24	0.28	(d) その他費用 = $\frac{[期中のその他費用]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、交付運用報告書等の作成・印刷・送付に係る費用、及び信託財産計理業務に係る費用 その他は金銭信託への預入金額に対する手数料
(保管費用)	(—)	(—)	
(監査費用)	(5)	(0.06)	
(印刷費用)	(19)	(0.22)	
(その他)	(0)	(0.00)	
合計	121	1.39	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) ー印は該当がないことを示します。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません(マザーファンドを除く)。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示しております。

## ☆最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。分配金再投資基準価額は、2014年6月17日の値を基準価額に合わせて指数化しています。

(注2) 運用実績が5年未満でも横軸は5年間表示しております。

(注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、またファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2014年6月17日 設定日	2014年11月25日 決算日	2015年11月25日 決算日	2016年11月25日 決算日
基準価額(円)	10,000	9,959	9,663	8,063
期間分配金合計(税引前)(円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率(%)	—	△0.4	△3.0	△16.6
純資産総額(百万円)	588	1,055	1,688	1,029

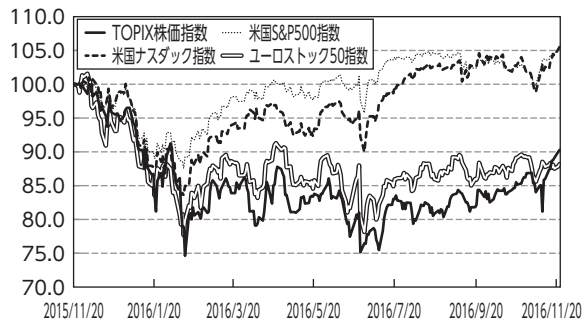
※騰落率は1年前の決算応答日との比較です。設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

※—印は該当がないことを示します。

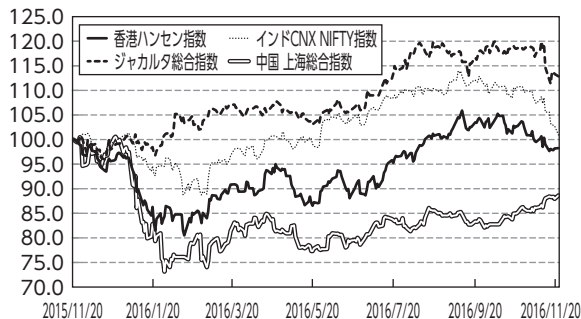
当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

## ☆市場概況

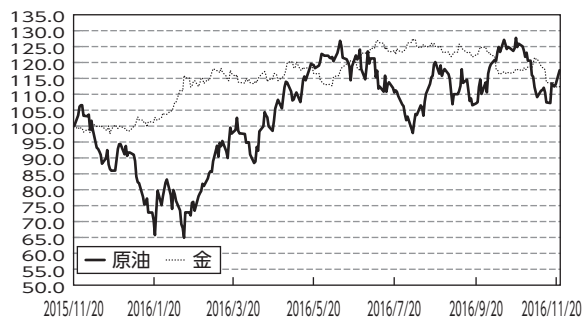
主要先進国株価指数の推移(現地通貨ベース)  
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要アジア株価指数の推移(現地通貨ベース)  
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



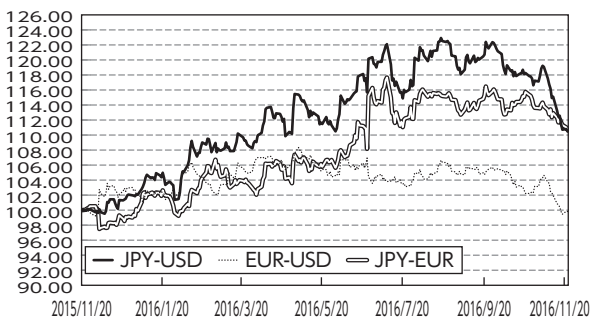
主要商品価格の推移(現地通貨ベース)  
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



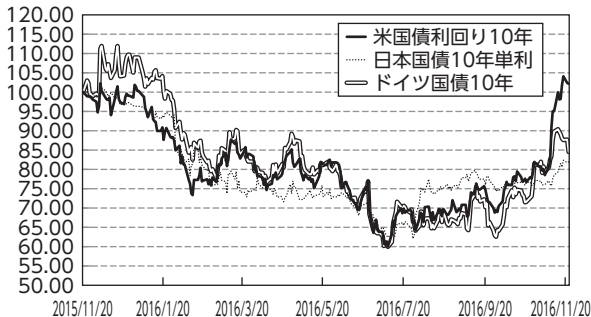
VIX指数の推移(現地通貨ベース)  
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要国通貨の推移(対米ドル)  
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



主要国債長期金利の推移  
2015年11月20日を100として騰落率を算出しています。



当期は、アメリカの中央銀行であるFRB(連邦準備委員会)の金融政策や、原油価格、世界景気、世界情勢などの金融市場に影響を及ぼす重要な要因が頻繁に変化した結果、株式や債券、コモディティ、為替などの金融市場の勢いや方向性も頻繁に変化しました。

例えばFRBは、2015年末には2016年中に4回ほどの利上げ、すなわち合計では1%の利上げを行う事を自ら予想していましたが、紆余曲折の末、2016年に入ってから一度も利上げを行っておらず、12月に行われる今年最後のFOMC(連邦公開市場委員会)で今年初めての利上げが見込まれています。このFRBの利上げスタンスの頻繁な変化は、それ自身が原因となって金融市場への多大な影響を与えますが、一方これだけFRBの利上げスタンスが変化したのは、利上げを判断する為の材料、世界景気や世界情勢が2016年には頻繁に変化した事の反映でもあります。その結果、金融市場の多くでは上昇と下降を繰り返す局面が多く、また、これらが突然にしかも大幅に起こる場面が再三見られました。

2016年はサウジアラビアとイランが1月2日に国交を断絶したニュースを受け、原油が下落してこれによって米国株が下落する事で始まりました。更に中国の景気不安から中国株も大きく売られ、日経平均株価も下落しました。北朝鮮が水爆実験を敢行した事や、台湾総統選挙で台湾独立派の蔡英文氏が当選した事も、投資家のリスク意識を高めました。また、アメリカの中央銀行であるFRBがドル高をアメリカ景気に対するリスクとして指摘した事をきっかけとして円高ドル安が進行しました。

2016年の4月から6月にかけては、日経平均株価はさらに下落しましたが、これは円高ドル安の進行に大きく影響されました。また、6月末には事前の予想に反して英国の国民投票でEU離脱が可決された事(BREXIT)にも金融市場は悪影響を受けました。

2016年11月初旬に行われた米国大統領選挙では、事前の世論調査の結果に反して、ドナルド・トランプ候補が米国第45代大統領に選出されました。8年間続いた民主党政権下で十分な恩恵を受けなかった労働者層の不満に対してトランプ候補の語った夢に支持が集まった事、過去長きに亘って米国政治の中心で活躍してきたクリントン候補への批判票が結果に重要な影響を及ぼす州での勝敗を分けた事などが、予想外の結果となった原因と考えられます。

この大統領選に際しては開票が進むにつれて、安全資産と認識されている日本円が買われ、メキシコペソは下落しました。また、世界中の株価指数が急落し、リスク指数として知られるVIX指数が急上昇しました。しかし、トランプ氏の勝利演説では今までの過激な暴言は影をひそめ、選挙で分断されたアメリカ全体を一つにする事に注力する趣旨が強調された事に加えて、将来の米国の財政赤字の拡大に注目して米国金利が急上昇したことからドル高が進み、日本株は前日の下落分を1日で取り戻す激しい値動きとなりました。日本株のみならず世界の先進国の株式市場の大方では、トランプショックから極めて短期で立ち直りましたが、これは今年6月に英国のBREXITからの金融市場が比較的短期で回復した事を投資家が経験している事も原因と思われます。

## ☆運用概況

当ファンドの主要投資対象とする「CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」に概ね95%程度、「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」に概ね5%程度の投資を行いました。

以下は、「CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」の運用概況です。

## 資産配分

株式投資については、主に日本、米国、欧州などの先進国の株式に高めの配分としたほか、インドをはじめ新興国などにも投資を行いました。通貨については、日本円や豪ドル、カナダドルなどに投資を行いました。コモディティ等については、金や原油、プラチナ、シルバーの他、VIX指数(シカゴ・オプション取引所が、米国株S&P500指数を対象とするオプション取引のボラティリティを元に算出、公表している指数です。)などに投資を行いました。なお、各資産の投資(買いと売りを含む)については、それぞれの原資産と連動性が高い先物取引等を通じて投資を行いました。

## 資産選定

組入れ資産の選定については、分散投資を行いリスクの軽減を図りつつ、世界の資産の価格モメンタム(価格の勢い・方向性)を重視して機動的な資産配分を行いました。また、相場上昇時だけでなく、相場下落時の価格モメンタムも重視し、ショート(売り)を組み入れるなどの選定を行いました。

## ☆当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

## ☆分配金

運用の基本方針等を勘案し、収益分配金は見送らせていただきました。なお、留保金の運用については特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(1万口当たり・税引前)

項目	第3期	
	2015年11月26日～ 2016年11月25日	
当期分配金	(円)	—
(対基準価額比率)	(%)	(—)
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	59

(注1)「当期の収益」及び「当期の収益以外」は、円未満を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示します。



## ★今後の運用方針

当ファンドは、チャータード・インベストメント・マネジャーズ・ピーティーイー・エルティーディーが運用を行う「CIM・バリエーション・ストラテジー・ファンド」(以下、ケイマン籍円建外国投資信託といいます)を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。ケイマン籍円建外国投資信託では、世界の上場投資証券、有価証券指数先物取引、商品先物取引等への投資を通じて、世界各国(日本を含む)の株式、債券、金や原油などのコモディティ、及び、ボラティリティ指数等の幅広い資産へ、実質的に投資を行います。基本投資配分比率は、「ケイマン籍円建外国投資信託」95%程度、「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」5%程度とします。

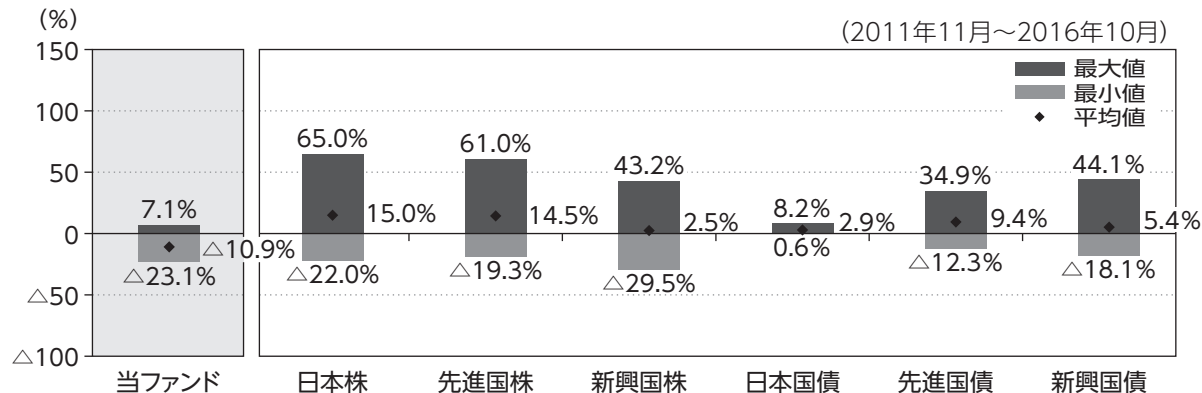
## ★お知らせ

該当事項はございません。

## ★当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信/内外/資産複合/特殊型	
信託期間	2014年6月17日から2024年5月31日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主に世界(日本を含みます。)の上場投資証券、有価証券先物取引、並びに金や原油等の商品先物取引等、およびわが国の公社債、短期金融商品に投資し、中長期的な信託財産の成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	ケイマン籍円建外国投資信託「CIM・バリエブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」および「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」の受益証券を主要投資対象とします。
	ケイマン籍円建外国投資信託「CIM・バリエブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」	世界の上場投資証券、有価証券指数先物取引、商品先物取引等への投資を通じて、境各国(日本を含む)の株式、債券、金や原油などのコモディティ指数等の幅広い資産を実質的な投資対象とします。投資方針としては、価格モメンタム(価格の勢い・方向性)を重視して機動的な資産配分を行います。さらに、相場上昇時だけでなく、相場下落時の価格モメンタムを重視し、ショート(売り)を組入れることにより収益機会を狙います。
	ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。
運用方法	投資対象投資信託証券である「CIM・バリエブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド」の受益権を当ファンドの信託財産の純資産総額の95%程度、「ファイブスター・マネープール・マザーファンド2」の受益証券を同じく5%程度ずつ組入れます。	
分配方針	分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とし、原則として毎年1回(11月25日。ただし、休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、安定した分配を行うことを目指します。分配金額は、委託者が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。収益分配に充てず信託財産内に留保した利益について、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行います。	

## ★代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1) 当ファンドについては2015年6月～2016年10月(5年未満)、他の代表的な資産クラスについては2011年11月～2016年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注2) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注3) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注4) 各資産クラスの指数

日本株: TOPIX (配当込み)

TOPIXとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

日本国債: NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が発表している我が国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債のほか、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI国債は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出、公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合投資収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべてCitigroup Index LLCに帰属します。

新興国債: シティ新興国市場国債インデックス (円ベース)

シティ新興国市場国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出、公表されている、主要新興国の国債の総合投資収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべてCitigroup Index LLCに帰属します。

※先進国株ならびに新興国株については米ドルベースのため、Bloomberg L.P.(ブルームバーグ・エル・ピー)が提供する円換算の指数を表示しております。

## ★当該投資信託のデータ

### ☆当該投資信託の組入資産の内容

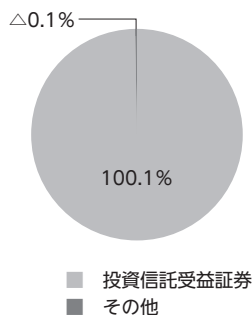
#### ○組入ファンド

	第3期末
	2016年11月25日
CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド	96.2%
ファイブスター・マネープール・マザーファンド2	3.9%
その他	△0.1%
組入ファンド数	2

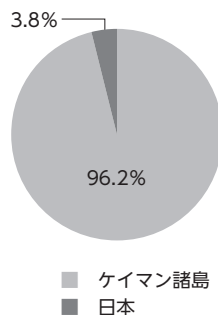
(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

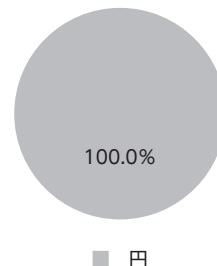
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注)組入ファンドおよび各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注)国別配分は発行国を表示しております。

### ☆純資産等

項目	第3期末
	2016年11月25日
純資産総額	1,029,073,991円
受益権総口数	1,276,312,106口
1万口当たり基準価額	8,063円

※期中における追加設定元本は144,617,531円、同解約元本額は615,733,682円です。

## ☆組入ファンドの概要

### CIM・バリアブル・コリレーション・ストラテジー・ファンド

計算期間(2015年8月1日～2016年7月31日)

\*外国籍投資信託については、当ファンドの運用報告書作成時点において入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。

#### ○基準価額の推移



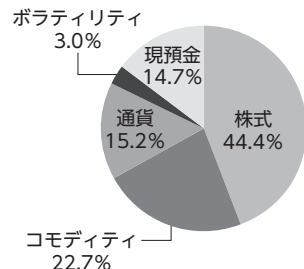
(注)現地基準日ベース

#### ○組入銘柄(組入銘柄数：12銘柄)

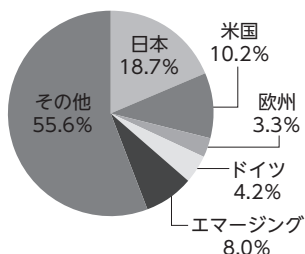
銘柄名	投資比率	銘柄名	投資比率
EURO STOXX BANKS INDEX (EUX) SEP-16	3.27%	GOLD (CMX) DEC-16	6.86%
GERMAN DAX (EUX) SEP-16	4.17%	JAPANESE YEN (CME) SEP-16	9.75%
NIKKEI 225 (OSE) SEP-16	18.73%	LIGHT SWEET CRUDE OIL (NYM) DEC-16	8.86%
MINI MSCI EMERGING MARKETS (EM) INDEX FUTURES	7.96%	PLATINUM (NYM) OCT-16	3.32%
AUSTRALIAN DOLLAR (CME) SEP-16	5.48%	SILVER (CMX) SEP-16	3.67%
CBOE VIX FUTURE (CBF) AUG-16	3.00%	CASH	14.68%
E-MINI NASDAQ-100 (CME) SEP-16	10.24%	TOTAL	100.00%

(注)比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

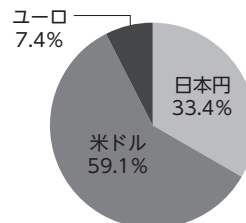
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注)各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注)国別配分は発行国を表示しております。

(注)組入銘柄および各配分のデータは期末現在のものです。

#### ○費用明細

(2015年8月1日～2016年7月31日(期末))

費用項目	金額(円)
支払利息	1,744,073
信託報酬	2,400,000
マネージャー報酬	7,648,701
管理報酬	4,800,000
保管機関報酬	778,321
委託報酬	4,659,193
監査報酬	2,064,040
その他費用とその他経費	1,969,496
合計	26,063,824

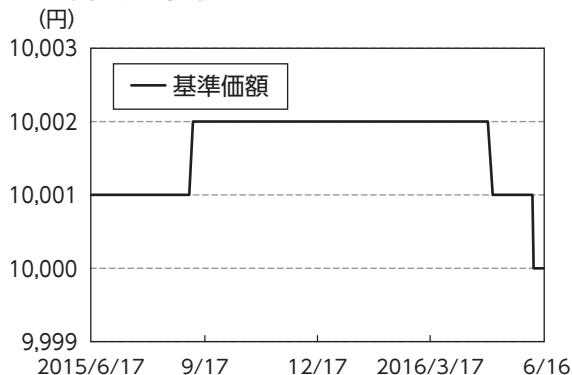
(注)詳細につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

(2016年7月31日(期末)現在)

## ☆組入ファンドの概要

### ファイブスター・マネープール・マザーファンド2 (2015年6月17日～2016年6月16日)

#### ○基準価額の推移



#### ○1万口当たりの費用明細

(2015年6月17日～2016年6月16日)

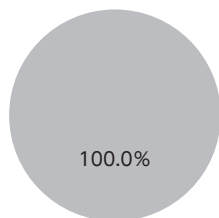
項目	
その他費用 (その他)	1円 (1)
合計	1

(注) 詳細につきましては、運用報告書 (全体版) に記載されています。

#### ○組入銘柄 (組入銘柄数：0銘柄)

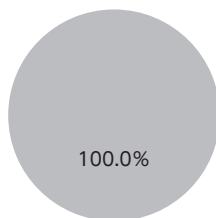
2016年6月16日現在、組入銘柄はありません。

#### ○資産別配分



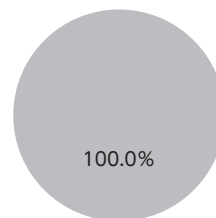
■ 金銭信託

#### ○国別配分



■ 日本

#### ○通貨別配分



■ 円

(注) 各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 組入銘柄および各配分のデータは期末現在のものです。